



(報告 心身障害児総合医療療育センター 金子断行)

2014年度 ABPIA 会議が 2014 年 10 月 18 日 (土) -19 日(日)に、仁濟大学海雲台白病院 (韓国・釜山) で開催されました。

初日の 18 日は、仁濟大学海雲台白病院大講堂で、ABPIA international symposium が開かれました。



※会場入口

大橋先生のオープニングスピーチ後に Hong 先生、紀伊先生、
荒井先生が講義をされました。



※大橋先生の開会式での熱いメッセージ

Hong 先生には、姿勢コントロールにおける頭頸部コントロールの重要性をデモンストレーションを混じえて講演頂きました。



※Hong 先生の講演風景

紀伊先生には、以前のボバース概念と現代のボバース概念がかなり変わったことをプレゼンテーションして頂きました。現在のボバースと NDT は明らかに異なっていることを強調し、我々はボバース概念に基づいた治療の遂行であり、NDT は全く行っていないことをアジアの聴衆に示して頂きました。





※紀伊先生の講演風景。通訳は森之宮病院の作業療法士カン先生

荒井先生には、脳性麻痺の分類についての詳細を示して頂き、分類が治療方針につながることを講演して頂きました。



※荒井先生講義風景

また各講演に対して鈴木恒彦先生がコメントを付け加えて頂き、アジアの治療の発展を励ましていただきました。



※鈴木恒彦先生のコメント



※会場風景

2日目の19日は、仁済大学海雲台白病院ホールで、ABPIA
ビジネス会議が開催され、大橋議長のもと、今後のABPIA
の発展のために多くの討論がなされました。



※ビジネス会議



※会議出席者の記念撮影

(報告 心身障害児総合医療療育センター 金子断行)